

令和4年度 全国学力・学習状況調査 江津市の結果概要

江津市教育委員会 学校教育課

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学、理科はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査を実施した学校数・児童生徒数

校種	学校数	児童生徒数
小学校	7校	140名
中学校	4校	170名

II 小学校の結果

(1) 教科に関する調査の結果

	平均正答率(%)		
	江津市	島根県	全国
国語	67	64	65.6
算数	62	61	63.2
理科	64	62	63.3

差は見られない < ± 2
 やや下回る（上回る） $\pm 2 \leq$, < ± 3
 下回る（上回る） $\pm 3 \leq$, < ± 4
 大きく下回る（上回る） $\leq \pm 4$

〈・概要 ○強み ▲弱み〉

国語	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全体として全国との差は見られない。 学習指導要領の内容「知識・技能(①言葉の特徴や使い方に関する事項)(②我が国の言語文化に関する事項)」は、全国を大きく上回っている。「思考・判断・表現」について全国と差はあまり見られない。 ○「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」ことはよくできている。 ○「漢字を文の中で正しく使う」ことや「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」ことはよくできている。 ▲「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」ことに課題が見られる。 ▲「互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」ことに課題が見られる。 ▲文学的文章において、「表現の効果を考える」ことに課題が見られる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全国との差は見られない。 高正答率者が全国と比較して少ない。 「数と計算」「図形」「データの活用」領域について全国との差は見られない。「変化と関係」領域は大きく下回っている。 ○整数の乗法を計算することや百分率で表された割合を分数で表すことはできている。 ○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。 ▲場面における目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。 ▲伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方を記述することに課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全国との差は見られない。 高正答率者が全国と比較して多い。 「生命」領域は全国を大きく上回っている。「エネルギー」「粒子」領域の差はみられない。「地球」領域はやや下回っている。 ○観察の視点を基に、解決の道筋を構想することはできている。 ○結果を分析解釈し、問題に正対した結論を導きだすことはできている。 ▲自分や他者の気づきを基に分析解釈し、新たな問題を発見することに課題がある。

(2) 児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」児童が全国を上回る。

学習に関わること

○「平日1時間以上家庭学習(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)している」児童が全国を上回る。

○「理科の授業で勉強したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」児童が全国を上回る。

▲「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使った」児童が全国を大きく下回る。

Ⅲ 中学校の結果

(1) 教科に関する調査の結果

中学校	江津市	島根県	全国
国語	70	69	69
数学	50	49	51.4
理科	48	48	49.3

差は見られない	$< \pm 2$
やや下回る（上回る）	$\pm 2 \leq, < \pm 3$
下回る（上回る）	$\pm 3 \leq, < \pm 4$
大きく下回る（上回る）	$\leq \pm 4$

〈・概要 ○強み ▲弱み〉

国語	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全体として全国との差は見られない。 領域別では「話すこと・聞くこと」は全国よりも上回っている。「書くこと」は全国と差は見られない。「読むこと」については全国よりも下回っている。 ○「文脈に即して漢字を正しく書く」ことはよくできている。 ○「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」ことはできている。 ▲文学的な文章を読み、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する」ことや「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」ことには課題がある。 ▲「行書の特徴を理解する」ことは課題がある。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全国との差は見られない。 低正答率者が全国と比較して多い。 ・「データの活用」領域は全国を大きく上回っている。「数と式」領域の差はみられない。「図形」「関数」領域は大きく下回っている。 ○簡単な連立方程式を解いたり、確率を用いて考察したりすることはできている。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはできている。 ▲数学用語の意味理解に課題がある。 ▲「図形」において根拠を基に説明することに課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率について全国との差は見られない。 低正答率者が全国と比較して多い。 ・すべての領域（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）について全国との差はみられない。 ○分子モデルから化学反応式を表したり、複数の脊椎動物の形態に関する共通点と相違点を理解したりすることはできている。 ○条件を制御した実験を計画することはできている。 ▲課題(題意)に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能に課題がある。 ▲探究方法の検討により、探究過程を見通したり、見直したりすることに課題がある。

(2) 児童生徒質問紙・学校質問紙調査（意識調査）

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」生徒が全国を大きく上回る。

学習に関わること

- 「前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」生徒は全国を大きく上回る。
- ▲「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週 1 回以上使った」生徒は全国を大きく下回る。
- ▲「平日 1 時間以上家庭学習（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）している」が全国を大きく下回る。

IV 江津市教育委員会の今後の対応

全国学力・学習状況調査結果をふまえ、市内小中学校で次のような取組が推進されるよう支援を行う。

◇成果・課題の把握と個別指導の充実

・各校において学力の成果(強み)や課題(弱み)を把握し、結果に基づいた補充学習や発展学習等の個別指導を充実させる。併せて組織的な対策を立てて児童生徒への学習内容の定着を図る。

◇授業の質の充実とICT活用の推進

・主体的・対話的で深い学びの視点での組織的な授業改善が推進されるよう、指導主事による学校訪問等を行い「江津市学力育成サイクルプラン」のさらなる充実を図る。
・指導者は学習指導要領で目指す資質・能力を育成するための単元構成や授業展開を意識する。授業では学んだ知識及び技能を繰り返し活用しながら、説明したり、友だちの考えと比較・検討したりする場面を設定する。併せて効果的にICTを活用するなど指導法の改善を図る。

◇家庭学習の充実

・家庭学習の意義について学校と生徒児童、家庭が共有するなど、連携した取組を一層すすめる。
・家庭学習の内容充実、習慣化を図るために、学校での学びと関連した課題を取り入れたり、タブレットドリルや学習プリント配信システムを活用したりする。

◇メディアコントロールの啓発

・子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために、適切なメディア接触について検討し、児童生徒や家庭への啓発に取り組む。

◇地域に関わる学習の充実

・児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、引き続き「江津市ふるさと・キャリア教育」を推進する。児童生徒に付けさせたい資質・能力を明確にして、系統的な探求の過程を意識した授業を行う。その際、児童生徒自らが問題を発見し、課題解決への道筋を見通しながら解決方法を考える場面を設定する。